

2019年4月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講 座	国際比較経済、経済理論・統計、 政策科学、経営学
プログラム	東アジア中核人材育成、政策実 践、地域公共政策
専門科目	経済理論・政策（マクロ経済学）

以下の問に解答しなさい。

問 (1)から(3)のすべての設問に解答しなさい。最終的な結果だけではなく、そこに至る論理的な思考過程に加点がなされることに注意しなさい。また必要な仮定があれば適宜加えてよいが、そのことを明示すること。

(1) 信用創造（あるいは預金創造）の過程を考える。いま中央銀行が供給するハイパワードマネーを H とし、準備率を m , $0 < m < 1$ とする。現金が保有されないと仮定した場合、この経済の貨幣ストック M はどのように表されるか、説明しなさい。

(2) 短期のマクロ経済を IS-LM モデルで記述することを考える。 Y を国民所得、 r を利子率、 $C(Y)$ を消費関数、 $I(r)$ を投資関数、 G を政府支出、 $L(Y,r)$ を貨幣需要関数、 M を貨幣ストック（＝貨幣供給量）とする。その他の要素は無視してよい。さらに上記の諸関数を

$$C(Y) = cY, 0 < c < 1, \quad I(r) = -ar, a > 0, \quad L(Y,r) = kY - br, \quad k, b > 0$$

と特定化しよう。このとき、均衡国民所得と均衡利子率を求めなさい。

(3) さらに一般的な IS-LM モデルを考える。設問(2)の諸関数は滑らかで以下の（偏）微分に関する条件を満たすとする。すなわち、

$$0 < C'(Y) < 1, \quad I'(r) < 0, \quad \partial L(Y,r) / \partial Y > 0, \quad \partial L(Y,r) / \partial r < 0.$$

このとき、設問(1)における準備率 m の引き上げが国民所得および利子率に与える影響を調べなさい。

以上